

# リベラル・アーツ教育に基づく キャリア構築支援

染谷 淑子

(東京女子大学 キャリア・センター長)

## はじめに

東京女子大学は一九一八年に創立し、九〇年にわたる女子教育の歴史を持っています。創立以来、女性としての単なる生活技術を学ぶ女子教育ではなく、「女性にも学問を!」「自己の確立した女性を育てる」ということが教育方針の根幹にありました。「男女雇用機会均等法」が施行され、およそ二〇年が経ちます。「性別役割分業」から「男女共同参画時代」へと、世の中の流れは転換してきました。しかしながら、現在においても女性が男性と肩を並べて、

社会的に責任のある、決定権を担う職業につくことは簡単ではありません。

また日本女性の平均寿命は八六歳を超え、世界最長寿を二四年間続けています。出産と育児を担いながら働き続けることが困難であっても、今や日本女性にとって、子育て後の人生は、生涯の半分以上を占める現状になってきています。

そこで本学では、男性とは異なる状況にある、女性の生涯を見通したキャリア構築支援を実施しています。二〇〇七年度から二〇〇九年度の三年間、文部科学省の大学改革推進事業として、「東京女子大学キャリア・ツリー」が採

扱われ、現代G Pプログラムとしてのキャリア教育が実践されています。ここでは、この特色あるキャリア構築支援の概要とその実践状況についてご紹介したいと思います。

### 一 東京女子大学キャリア・ツリー

現代G P（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）として実施されている「東京女子大学キャリア・ツリー」は、本学の教育理念である「女性の自己確立とキャリア探求の基礎となるリベラル・アーツ教育を土壌とし、その上に枝葉を広げる樹木のように学生が力強く自己を確立すること」を目指します。そして社会参画するための正課教育と正課外教育とを連携させた総合的キャリア構築支援として展開しています。

二〇〇九年度から、本学は従来の二学部から「現代教養学部」の一学部四学科一二専攻構成となり、幅広く、深みのある、より「リベラル・アーツ」に焦点を当てた四年間の大学教育体制を整えました。近年、資格取得を

前面においた四年制大学のカリキュラムが人気を集める中、本学はあえて教養重視の教育を目指しています。特定の知識と技能を修得することよりも、卒業後、主体性ある個人として生涯を生きていくときに不可欠とされる、思考力、判断力の礎である「叡知」をはぐくむ教育に重点をおき、それをキャリア教育と連携させたものを、キャリア・

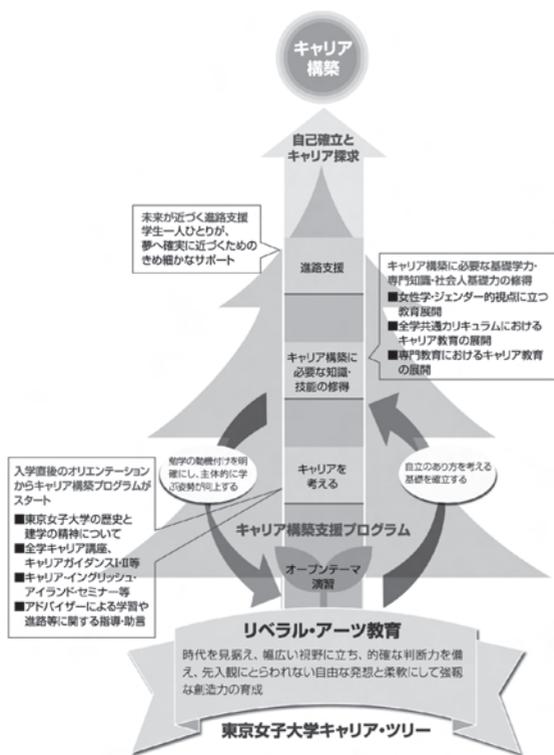


図1 東京女子大学キャリアツリー

## 特集・職業指導（キャリアガイダンス）

ツリー」と称しています。

この企画には、変動の著しい現代社会では将来を見通すことは困難で、長い人生を生きていくとき、その時代、その状況に即したキャリアが求められる、という前提があります。それゆえに、その時々々に即したキャリアが求められ、その時々々の状況に対応する主体性と柔軟性が必要とされます。したがって、キャリア構築支援と教育は、変動する社会のニーズに対応し得る自己を育てることが必要となります。さらに、キャリアは生涯を通して形成するものと捉えています。それゆえに、卒業時の「新卒」としての就職を支援するに止まらず、生涯にわたるキャリア・ライフの追求に射程をおき、それを支えるものとして重要となるリベラル・アーツ教育を基盤に組み立てられています。

### 二 キャリア・ツリーとオープントーマ演習

東京女子大学キャリア・ツリーは、リベラル・アーツ教育に基づくキャリア構築支援の取り組みで、二〇〇七年度から三年間のプロジェクトとして実施され、今年、二〇〇九年度は最終年度に当たります。正課教育に組み込まれたオープントーマ演習（\*1）は、「社会に発信する

東京女子大学」という授業題目のもとに、以下三つのカテゴリーで構成され、今年度は二つのカテゴリーの下に、いくつかの演習が開かれています。なお、正課教育に組み込まれたオープントーマ演習は、三年間のGPプログラムが終了した後も、同様の形で選択科目として継続されます。

〔A〕学生による大学紹介―東京女子大学の過去・現在・未来―

・ いろいろなメディアによる表現

・ 学生による東京女子大学紹介DVDの制作（二〇〇九年度版）

〔B〕創立九〇周年を迎えて―社会に貢献する女子大学の役割―

〔C〕学問と社会の接点を広げて―リベラル・アーツ教育に基づくキャリア教育―

・ 野生生物保全をめぐる諸問題

・ 性の多様性を考える―個別性と共生

・ 「白鳥の湖」を解体し、再構築する

・ 境界を越える文化・人・わたし

・ Y A 文学研究―輝く女性のライフデザイン

・ ヨーロッパの「教養小説」を読む

・ 「名所」から見た日本文化

・物流から現代経済を考える

以上、一〇人の教員が一〇の演習を担当し、二、三、四年次の履修学生が、学年・学科を超えて縦の関係で研究活動を行ないます。

演習では、オープンテーマ演習の趣旨を踏まえ、主体的に課題に取り組み、自らの相違を具体化させ、創造的な活動を軸に、共同調査や討論を重ねながら、その成果を、大学祭での発表、オープンキャンパスでのDVD上映等、学内のみならず、学外にも発信します。

### 三 その他の正課教育、正課外教育におけるキャリア教育

本学では各学科に、専門知識と技能の習得、資格取得につながる課程を設け、卒業論文（数理科学科は卒業講究）を必修として課しています。各課程は、少人数のゼミによって、自由な発想と創造性の涵養を期しながら、学生が一年次から、専門的な知識と技能、問題を認識、分析し、解決に導く能力、論理性を体得し、自らキャリアを開拓できる力を蓄えられるように企図して組まれています。卒業論文を課す大学が少なくなっている中で、本学は全学生に卒業論文ないし卒業講究を課していますが、その具体的な目

標に向かって前記の能力を最大限に発揮させるという点で、この卒業課題をリベラル・アーツ教育に基づくキャリア構築支援の集大成と位置づけています。

この他、正課教育の基幹講座として、女性学研究所が企画担当している「総合講座・女性学A、授業科目『女性とキャリア』」、「ジェンダーと社会B、授業科目『女性のキャリアデザイン』」を開講しています。これらの講座は、前期、後期に分けて開講され、数人の教員がそれぞれの専門分野を担当する一五回のチェインレクチャーで成り立っています。本学の「女性」をテーマとしたこの総合講座は四〇年以上の歴史を持ち、女子大ならではの特色ある講座として発展してきました。現在では多くの大学で実施されている総合講座としてのチェインレクチャーは、この東京女子大学の「女性」講座がモデルになったというユニークな伝統があります。

授業の内容は、「女性としての生き方」について、職業を含めて長い人生で直面する「キャリア探求」に関わる具体的な課題を、多方面からアプローチします。具体的には、企業におけるキャリア形成、多様な分野におけるキャリアデザイン、地域や社会の接点での仕事作り、仕事と家庭・個人生活の両立、などがあります。

## 特集・職業指導（キャリアガイダンス）

また、正課外教育におけるキャリア構築支援としては、以下のようなものが実施されています。

### ① 東京女子大学学会（\*2）「学生研究奨励費」制度

本学独自の学生研究奨励費制度を活用し、学生の共同研究を推進し、学生自身でそれぞれのテーマを継続的に探求する機会を提供する。この制度を利用し、正課教育におけるオープンテーマ演習での研究を継続して行う学生グループもある。

### ② キャリア構築講座

社会の様々な分野のトップで活躍する人々、卒業生で活躍している人々を招いて講演会を開く。直接活躍する人々に触れ、生の声を聞くことにより、具体的に仕事とキャリア構築のビジョンを得る。今後の自分自身のキャリア構築に役立てる。

### ③ キャリア・センターによる各種キャリア構築支援プログラム

全学キャリア講座、年次別ガイダンス、就職ガイダンス、四年次学生による就職報告会、就職セミナー、各種就職試験対策講座、キャリア・イングリッシュ・アイランドとの連携によるセミナーなどを開催し、多方面からの支援を行

なう。

### ④ キャリア・カウンセラーによる個別進路相談

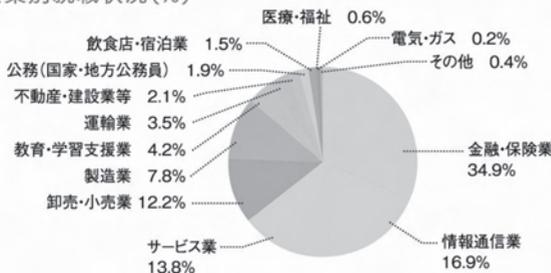
週二回、有資格のキャリア・カウンセラーの相談日を設け、アポイントメントによる学生の個別進路指導を行なう。

### ⑤ 卒業生の活動状況の把握

卒業後四年目および一一年目の卒業生を対象に、就職状況アンケートを実施し、在学生が卒業後の進路を具体的に考える資料として提供する。

以上のように、東京女子大学では、本学の教育目的である「リベラル・アーツ教育におけるキャリア構築支援」を、正課教育と正課外教育

産業別就職状況(%)



参考資料 1 2008 年度卒業生の産業別就職状況

特集・職業指導（キャリアガイダンス）

が連動したキャリア・ツリーとして全学的に展開し、学生の主体的なキャリア構築支援を総合的・実践的に推進しています。

\*1 オープンテーマ演習

平成一六年度より全学共通カリキュラムの中の共通科目に、教員から知識を受け取るだけでなく、主体的、能動的に「教養形成」を図ることをめざして、「オープンテーマ演習」を設置し、担当教員が設定する自由なテーマの下に、学生の自発的な学習を促す演習を開講している。

\*2 東京女子大学学会

建学の理念を本学の全学生と全教員が一体となつて実現、推進する課外活動組織として昭和二五年に創設、学生の自主的グループ研究を助成する学生研究奨励費は昭和四八年に創設され、今日まで活動を継続している。

## 進路決定状況

| 学部     | 学 科         | 卒業生数 | 就職希望者数     | 就職者数       | 進学者数      | その他       |
|--------|-------------|------|------------|------------|-----------|-----------|
| 文理学部   | 哲学科         | 35   | 24(68.6%)  | 23(95.8%)  | 4(11.4%)  | 7(20.0%)  |
|        | 日本文学科       | 108  | 87(80.6%)  | 85(97.7%)  | 10(9.3%)  | 11(10.2%) |
|        | 英米文学科       | 135  | 125(92.6%) | 122(97.6%) | 4(3.0%)   | 6(4.4%)   |
|        | 史学科         | 95   | 82(86.3%)  | 79(96.3%)  | 9(9.5%)   | 4(4.2%)   |
|        | 社会学科        | 126  | 116(92.1%) | 116(100%)  | 6(4.8%)   | 4(3.2%)   |
|        | 心理学科        | 83   | 57(68.7%)  | 56(98.3%)  | 14(16.9%) | 12(14.5%) |
|        | 数理学科        | 84   | 70(83.3%)  | 69(98.6%)  | 7(8.3%)   | 7(8.3%)   |
|        | 学部計         | 666  | 561(84.2%) | 550(98.0%) | 54(8.1%)  | 51(7.7%)  |
| 現代文化学部 | コミュニケーション学科 | 104  | 93(89.4%)  | 92(98.9%)  | 2(1.9%)   | 9(8.7%)   |
|        | 地域文化学科      | 107  | 93(86.9%)  | 92(98.9%)  | 6(5.6%)   | 8(7.5%)   |
|        | 言語文化学科      | 86   | 73(84.9%)  | 71(97.3%)  | 2(2.3%)   | 11(12.8%) |
|        | 学部計         | 297  | 259(87.2%) | 255(98.5%) | 10(3.4%)  | 28(9.4%)  |
|        | 合計          | 963  | 820(85.2%) | 805(98.2%) | 64(6.6%)  | 79(8.2%)  |

参考資料2 2008年度卒業生の学科別進路決定状況